

病院機能評価の更新認定を受けました

平成25年7月11日、12日の両日にわたり、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の審査を受け、「一般病院2（主として、急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院）」の区分で、病院機能評価の更新認定を受けました。

当院は、各審査項目で高い評価を受けました。特に、「地域の医療機関と適切に連携していること」及び「感染防止対策が適切であること」については、**最高ランクのS評価**をいただきました。



スマホ版ホームページができました

市立病院のホームページがスマートフォンでもご覧いただくことができるようになりました。

お出かけ先からでも、休診情報など、すぐに知りたい情報が確認できます。また、外来・救急診療・入院のご案内や採用情報も掲載しています。



箕面市立病院
スマホ版HP
QRコード

看護局のページでは、採用情報、職場紹介や、現場で働く看護師の声などを紹介しています。ぜひ一度ご覧ください！

スマホで覗ける
看護師の想い

看護局スマホ版HP
QRコード

けいせい ボトックス外来（痙性抑制外来）を開設しました

脳卒中の後遺症で痙性（けいせい）という症状があります。痙性とは、手足がつっぱって痛くなったり、勝手に動いてしまう状態のことです。

リハビリテーション科では、11月6日からボトックス外来を開設し、脳卒中の後遺症でこのような症状でお困りの患者さまを対象に、ボトックス療法を行っています。

受診には、かかりつけ医の紹介状と事前予約が必要です。

対象となる患者さま

- ・脳卒中発症後6ヶ月以上経過した方
- ・身体障害者手帳2級以上をお持ちの方
- ・全身性の筋脱力を起こす病気の既往のない方

痙性の代表的な症状



足先が伸びて戻りにくい 肘が曲がって伸びにくい 手指が握ったまま開きにくい

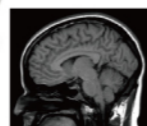
ボトックス療法とは？

筋肉の緊張を和らげる作用がある天然のたんぱく質を有効成分とする薬を筋肉内に注射する治療法です。

MRI装置増設で検査待ち日数の短縮を図ります

12月から、MRI装置(磁気共鳴画像診断装置)を増設し、2台体制となります。

これにより、患者さまの検査待ち日数の短縮など診療体制の充実を図ります。



脳の断面の画像

MRI検査とは？

MRI装置は体が入る大きな磁石のようなもので、この中で、FMラジオに用いる電波を体に当てて体中の様子を画像化します。鮮明な画像なので、がんや脳こうそくなどの診断に大変役立つ検査です。



箕面市立病院だより

2013.12 Vol.29

<http://www.minoh-hp.jp>

編集発行：箕面市立病院 患者サービス・広報委員会 ☎072-728-2001(内線2719)



INDEX

〈特集〉チーム医療で取り組む栄養管理と院内感染の防止

毎年秋から冬にかけては、インフルエンザの流行シーズンです。日本では、およそ10人に1人が感染しています。予防には、「かからない」、「うつさない」という意識がとても大切です。ウイルスがついた手で、口や鼻を触って感染しないように手洗いをし、他の人にうつさないようにマスクを着用しましょう。

インフルエンザを予防しよう！

正しい手を洗いましょう！

- 流水でよく手をぬらし、石鹸をつけ、手のひらをよくこすります。
- 手の甲をのぼすようにこすります。
- 指先・爪の間を念入りにこすります。
- 指の間を洗います。
- 親指と手のひらをねじり洗います。
- 手首も忘れずに洗います。

洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取りましょう！

マスクを正しく着用しましょう！

ポイントは、**鼻、あご、ほお**が密着していること！

かかったかも？と思ったら…

急に**38℃**以上の熱が出て、せき、のどの痛み、全身のだるさがあるなど、インフルエンザにかかったかも？と思ったら…できるだけ早く身近なまちのお医者さん（かかりつけ医）に行きましょう！

チーム医療で取り組む 栄養管理と院内感染の防止

栄養サポートチーム(NST)

栄養状態の改善により治療効果を高め、早期回復を図ります。

1 入院患者さま全員の栄養状態を確認します。



身体状況・食事摂取の状況を確認

各種検査(血液、尿等)

各種検査結果、問診等により入院患者さまの栄養状態を調べます。

2 栄養サポートチームが、適切な栄養療法を検討します。



1週間ごとに患者さまを回診し、必要な栄養は何か、そして、それを摂取するための適切な方法(栄養療法)は何かを検討します。

3 患者さまの病状にあわせて適切な栄養療法を実施します。



食事、点滴、胃や腸への栄養注入など患者さまの病状に応じて適切な栄養療法を実施します。

Q 栄養と治療って関係あるの？

もちろんです！栄養状態が悪いと、このようなことが起きます！

- ・免疫力低下による感染症などの合併症
- ・自然治癒力低下による回復の遅れ
- ・皮膚状態の悪化に伴う床ずれ などなど。

栄養は治療に不可欠なのです！

他にもこんなチームが活躍中！

- 緩和ケアチーム
がんに伴う体と心の痛みを和らげます。
- 褥瘡(じょくそう)チーム
褥瘡(床ずれ)の予防や早期回復を図ります。
- 呼吸器管理チーム
人工呼吸器の適正な管理運用を行います。
- クリニカルパスチーム
クリニカルパス(病気ごとの標準的な診療スケジュール表)の作成と円滑な運用を図ります。



退院後も適切な栄養管理ができるように、かかりつけ医や介護施設などに対して、患者さまの栄養状態や当院での栄養療法の情報をお伝えしています。

また、地域の医療従事者に対する栄養管理の研修会も開催しています。

箕面市立病院では、患者さまにより安全・安心な医療を提供するために、医師をはじめとする医療スタッフ各職種の専門性を活かし、ひとつのチームを組んで治療にあたるチーム医療を推進しています。

現在、医療課題ごとに6チームが活動しています。このうち、**栄養サポートチーム**と**感染対策チーム**の2つのチームをご紹介します。

感染対策チーム(ICT)

患者さまを院内感染から守ります。

感染症ってなに？



ウイルスや細菌などの病原体が体内に侵入して増殖し、発熱や下痢、咳等の症状がでることです。

院内感染ってなに？



健康な人には悪さをしない菌も免疫力の弱った人には脅威です。

病院において、新たに感染症にかかることを「院内感染」といいます。
病気で免疫力が衰えた患者さまにとって、多くの人が出入りする病院は、感染症にかかりやすい場所といえます。

感染対策チームが、患者さまの感染症防止策を検討します。

1



各病棟で免疫力が低下し感染症にかかりやすくなっている患者さまをリストアップ

2

感染対策チームが、患者さまの病状を把握し、感染症を発症しないために何が必要かを検討します。



3

抗菌薬の活用



個室管理



患者さまの病状に合わせて、病原体を抑制する薬(抗菌薬)の活用や、人との接触を制限する個室管理など適切な方法を検討します。

病院スタッフを介しての院内感染を防止します。

スタッフ研修



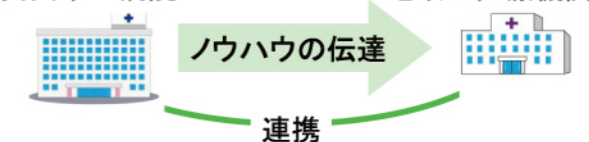
手洗いやマスク着用の徹底

院内感染は、病院スタッフを介して、病原体が患者さまへ感染することによっても起こります。
このような事態が起こらないよう、病院スタッフに対し、日常的に研修を行い、手洗いやマスクの着用などの標準予防策を徹底しています。

地域全体の感染防止の取り組み

箕面市立病院

地域の医療機関



現在の医療は、地域の医療機関が役割分担をして患者さまの治療を行っています。
感染対策チームでは、地域の医療機関に対して感染管理の指導や研修を行い、地域全体で感染を防止する活動も行っています。



栄養サポートチームと感染対策チームの活動が、それぞれ4月と6月に大阪府内トップレベルと報道されました。また、病院機能評価(詳細裏面)において、感染防止対策が、最高のSランクの評価を受けました。